

8.5 水利用

8.5.1 東京 2020 大会の大会開催後

(1) 調査事項

調査事項は、表 8.5-1 に示すとおりである。

表8.5-1 調査事項(東京2020大会の開催後)

区 分	調査事項
予測した事項	・水の効率的利用への取組・貢献の程度
予測条件の状況	・節水設備の状況
ミティゲーションの実施状況	・トイレ手洗いへの自動停止水栓設置。 ・利用者へ節水を呼びかけるポスター掲示。

(2) 調査地域

調査地域は、計画地とした。

(3) 調査手法

調査手法は、表 8.5-2 に示すとおりである。

表8.5-2 調査手法(東京2020大会の開催後)

	調査事項	水の効率的利用への取組・貢献の程度
	調査時点	施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とした。
調査期間	調査する事項	大会開催後の適宜とした。
	調査条件の状況	大会開催後の適宜とした。
	ミティゲーションの実施状況	大会開催後の適宜とした。
調査地点	調査する事項	計画地とした。
	調査条件の状況	計画地とした。
	ミティゲーションの実施状況	計画地とした。
調査手法	調査する事項	関連資料の整理による方法とした。
	調査条件の状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。
	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影等)及び関連資料の整理による方法とした。

(4) 調査結果

1) 調査結果の内容

ア. 予測した事項及び予測条件の状況

(ア) 水の効率的利用への取組・貢献の程度

計画地は、皇居外苑北の丸地区（北の丸公園）に位置していることから、中道場棟の増築による敷地拡張が公園面積を削減することとなるため、拡張面積を極力コンパクトにした設計とした。また、中道場棟は本館と連携するため連絡地下通路で繋がることから、地下階高も本館に合わせ 3.0m とした。そのため、中道場棟に雨水利用設備の導入も検討されたが、ろ過・処理機械室の面積確保が困難であること、地下ピットに雨水貯留槽の設置は可能なものの、配管の設置が非常に困難であることから、設置不可となった。また、本館の改修においても雨水利用設備の導入を検討したが、既存地下ピットを雨水貯留槽が設置可能となるよう改修することは困難であり、さらに本館建物内に新規の雑用水管を施工することが不可能なため、設置不可となった。

本事業においては、増改修後の節水の取組として、雨水利用や循環利用水（中水）の取組は実施していないが、トイレ手洗いへの自動停止水栓の設置、トイレの擬音装置の設置を行っており、一般的な節水対策を実施している。

イ. ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.5-3 に示すとおりである。なお、水利用に関する問合せはなかった。

表8.5-3 ミティゲーションの実施状況(東京2020大会の開催後)

ミティゲーション 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ手洗いへの自動停止水栓設置。
<p>トイレ手洗いは、自動停止水栓を設置した。また、トイレの擬音装置を設置した。</p>	
	
<p style="text-align: center;">自動停止水栓 トイレの擬音装置</p>	
ミティゲーション	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者へ節水を呼びかけるポスター掲示。
実施状況	
<p>今後、施設の利用が行われる際には、トイレの手洗い場等に節水を周知するポスター等を掲示すること等により、利用者に対する節水を周知する予定である。</p>	

2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

ア. 予測した事項

(ア) 水の効率的利用への取組・貢献の程度

計画地は、皇居外苑北の丸地区（北の丸公園）に位置していることから、中道場棟の増築による敷地拡張が公園面積を削減することとなるため、拡張面積を極力コンパクトにした設計とした。また、中道場棟は本館と連携するため連絡地下通路で繋がることから、地下階高も本館に合わせ 3.0m とした。そのため、中道場棟に雨水利用設備の導入も検討されたが、ろ過・処理機械室の面積確保が困難であること、地下ピットに雨水貯留槽の設置は可能なものの、配管の設置が非常に困難であることから、設置不可となった。また、本館の改修においても雨水利用設備の導入を検討したが、既存地下ピットを雨水貯留槽が設置可能となるよう改修することは困難であり、さらに本館建物内に新規の雑用水管を施工することが不可能なため、設置不可となった。

本事業においては、増改修後の節水の取組として、雨水利用や循環利用水（中水）の取組は実施していないが、トイレ手洗いへの自動停止水栓の設置、トイレの擬音装置の設置を行っており、一般的な節水対策を実施している。

以上のことから、予測結果と同様に、事業の特性に応じた節水対策が講じられていると考える。